

宇都宮市立田原中学校 第2学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 学校行事に対する取組が意欲的な学年であり、昨年度から多くの成功体験を積み重ねることができているため、ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある生徒の肯定率が90.8%と高い。
- 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある生徒の割合が高く、テレビやインターネットを使って情報を得ている生徒の割合も87.9%ほどいる。
- 学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組める生徒が多いが、学級内で人の役に立っていると感じている生徒は少ない。生徒一人一人の良さや成功体験を認め合うことができる雰囲気づくりに努めたい。その中で、自己有能感を高め、自信をもって自分の考えを表現することができる生徒を育てたい。
- 「家の人と学校での出来事について話をする」の質問に対する肯定率が、県、市に比べて大きく下回っている。また、学習状況調査の得点上位25%の集団は、92%が家の人と将来のことについて話をしているのに対し、得点下位50%の集団は、約50%しか家の人と将来のことについて話をしていない。家族と目標を共通理解できていることが学習意欲に影響しているということが考えられる。学校でも、目標を明確にし、結果よりも、目標達成に向け努力する過程を評価するように心がけながら、目を輝かせて夢を語る生徒を育てたい。
- 学習状況調査の得点上位25%の集団は、100%が家でのきまりや約束を守れていると回答しているのに対し、下位25%の集団は68%が家でのきまりや約束を守れていると回答している。学校でも、きまりや約束を大切にすることをさらに高めることができるような指導を継続して行いたい。
- 「時間を上手に使うことを、心がけている」の質問に対する肯定率が70.7%と低い。学習内容も難しくなり、部活動も中心として活躍する時期となるため、時間を上手に使うことが大切になってくると考える。そのためにも、計画を立て、計画どおりに行動しようと努力することや、計画どおりに行かなかったときに調整することができる力を育てる指導を行っていききたい。
- ふだん(月曜日から金曜日)、一日当たりテレビを見る時間もゲームをする時間も、学習状況調査の得点上位25%の集団と下位25%の集団で大きな差がある。上位25%の集団が2時間以上テレビを見る(ゲームをする)割合が32%(28%)であるのに対し、下位25%の集団が2時間以上テレビを見る(ゲームをする)割合は68%(60%)と高くなっている。テレビを見る時間やゲームをする時間について、家庭での約束を作っていただけよう保護者に呼びかけていきたい。
- 早寝早起きを心がけている生徒は68.7%いるが実際は、1日の睡眠時間が7時間以上とれていない生徒が42.5%いる。睡眠の大切さやメリットを伝えることだけではなく、忙しい中でも、睡眠時間をつくる工夫の仕方を考えられる指導に努めていきたい。●毎日、朝食を食べている生徒の割合が85.9%と昨年度より7.4ポイント低くなっている。今後とも食育だより等で継続的に呼びかけが大切であり、家庭にも食の大切さを呼びかける必要がある。また、好き嫌いをなく食べるように栄養にも目を向けさせるようにしていきたい。